別記様式第２号（その１の２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	研究科の専攻の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン ニショウガクシャ 学校法人　二松学舎	
フリガナ 大学の名称	ニショウガクシャダイガクダイガクイン 二松学舎大学大学院	
大学本部の位置	東京都千代田区三番町6-16	
大学の目的	二松学舎大学は、東洋の精神による人格の陶冶を旨とし、学校教育法に基づき、広く一般の基礎教養に関する学術と、更に深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を発展させるとともに、世界文化の進展に寄与し、国家社会に貢献する国際性豊かな有為の人物を養成することを使命とする。	
新設研究科等の目的	日本を中心としつつ東アジア諸地域及び西洋の諸現象を考究することで、多角的視点から歴史文化を考察する能力を身に付け、対象とする事象に対して社会の発展と課題解決に寄与する姿勢を持って、地域社会や国際社会へ貢献する人材を養成する。	

新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	文学研究科 [Graduate school of Literature] 歴史文化学専攻 [Course in History and Culture]	年 2	人 8	年次人 －	人 16	修士（歴史文化学）	文学関係	年月 第　年次 令和8年4月 第1年次	東京都千代田区三番町６番地１６
	計		8	－	16				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	文学研究科 国文学専攻（M）（△4）〔定員減〕（令和8年4月） 中国学専攻（M）（△4）〔定員減〕（令和8年4月）

教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	歴史文化学専攻	32科目	32科目	科目	64科目	30単位

研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員（助手を除く）
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設分	文学研究科　歴史文化学専攻(M)	5人 (4)	1人 (1)	1人 (2)	人 ()	7人 (7)	人 ()	3人 (3)
		()	()	()	()	()	()	()
	計	5人 (4)	1人 (1)	1人 (2)	()	7人 (7)	()	3人 (3)
既設分	文学研究科　国文学専攻(M)	14人 (14)	()	()	()	14人 (14)	()	8人 (8)
	中国学専攻(M)	5人 (5)	1人 ()	1人 (2)	()	7人 (7)	()	19人 (19)
	国際日本学研究科　国際日本学専攻(M)	7人 (4)	2人 (5)	1人 (1)	()	10人 (10)	()	4人 (4)
	計	26人 (23)	3人 (5)	2人 (3)	()	31人 (31)	()	31人 (31)
合計		31人 (27)	4人 (6)	3人 (5)	()	38人 (38)	()	34人 (34)

職種	専属	その他	計
事務職員	人 79(79)	人 10(10)	人 89(89)
技術職員	0(0)	0(0)	0(0)
図書館職員	2(2)	0(0)	2(2)
その他の職員	0(0)	0(0)	0(0)
指導補助者	0(0)	0(0)	0(0)
計	81(81)	10(10)	91(91)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	3,801.47㎡	18,145㎡	0㎡	21,946.47㎡	（共用）附属高校、柏中学・高校（必要面積）29,340㎡
	その他	0㎡	105,337㎡	0㎡	105,337㎡	
	合計	3,801.47㎡	123,482㎡	0㎡	127,283.47㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	41,810.91㎡ （　　㎡）	0㎡ （　　㎡）	0㎡ （　　㎡）	41,810.91㎡ （　　㎡）

講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室
	52室	2室	45室	7室

図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	文学研究科 歴史文化学専攻	77〔 9 〕 （37〔 5 〕）	24〔 0 〕 （12〔 0 〕）	0〔 0 〕 （0〔 0 〕）	0〔 0 〕 （0〔 0 〕）	0 （ 0 ）	0 （ 0 ）	大学全体での共用分 ・図書〔365,134冊〕 ・学術雑誌〔6,504ﾀｲﾄﾙ〕 ・電子ｼﾞｬｰﾅﾙ〔4,868点〕 ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ〔6点〕 ・電子書籍〔2,561点〕 ・視聴覚資料〔7,673点〕
	計	77〔 9 〕 （37〔 5 〕）	24〔 0 〕 （12〔 0 〕）	0〔 0 〕 （0〔 0 〕）	0〔 0 〕 （0〔 0 〕）	0 （ 0 ）	0 （ 0 ）	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		500千円	500千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	設備は既存設備を活用する
	共同研究費等		0千円	0千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費	500千円	250千円	250千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
	学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	
			870千円	620千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要	寄付金、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

既設大学等の状況

大学等の名称：二松学舎大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
文学部 国文学科	4	240	－	960	学士（文学）	1.23	昭和24年度	東京都千代田区三番町6-16 千葉県柏市大井2590
国際日本・中国学科	4	90	－	360	学士（文学）	1.06	昭和24年度	
都市文化デザイン学科	4	50	60	260	学士（文学）	0.93	平成29年度	
歴史文化学科	4	60	－	240	学士（文学）	1.16	令和4年度	
国際政治経済学部 国際政治経済学科	4	160	－	640	学士（国際政治経済学）	1.15	平成3年度	同上
国際経営学科	4	80	－	320	学士（経営学）	1.26	平成30年度	
文学研究科 国文学専攻	2	16	－	32	修士（文学）	0.59	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16
中国学専攻	2	16	－	32	修士（文学） 修士（日本漢学）	0.47	昭和41年度	
文学研究科 国文学専攻	3	5	－	15	博士（文学）	0.47	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16
中国学専攻	3	5	－	15	博士（文学） 博士（日本漢学）	0.6	昭和41年度	
国際政治経済学研究科 国際政治経済学専攻	2	10	－	20	修士（国際政治経済学）	0.5	平成13年度	東京都千代田区三番町6-16
国際日本学研究科 国際日本学専攻	2	20	－	40	修士（国際日本学）	0.95	令和4年度	東京都千代田区三番町6-16

附属施設の概要	該当なし

（注）
1　共同教育課程の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設研究科等の目的」，「新設研究科等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「既設分」については，共同教育課程に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」，及び「図書・設備」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」，「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学研究科　修士課程　歴史文化学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
日本歴史文化学講座	講義科目	日本歴史文化学講義Ⅰ	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本歴史文化学講義Ⅱ	1・2後			2		○			1						【隔年】
		日本歴史文化学講義Ⅲ	1・2前			2		○					1				【隔年】
		日本歴史文化学講義Ⅳ	1・2後			2		○					1				【隔年】
		日本歴史文化学講義Ⅴ	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本歴史文化学講義Ⅵ	1・2後			2		○			1						【隔年】
		小計(6科目)			0	12	0		―		2	0	1	0	0	0	
	演習科目	日本歴史文化学演習Ⅰ	1・2前			2			○		1						【隔年】
		日本歴史文化学演習Ⅱ	1・2後			2			○		1						【隔年】
		日本歴史文化学演習Ⅲ	1・2前			2			○				1				【隔年】
		日本歴史文化学演習Ⅳ	1・2後			2			○				1				【隔年】
		日本歴史文化学演習Ⅴ	1・2前			2			○		1						【隔年】
		日本歴史文化学演習Ⅵ	1・2後			2			○		1						【隔年】
		小計(6科目)			0	12	0		―		2	0	1	0	0	0	
東アジア歴史文化学講座	講義科目	東アジア歴史文化学講義Ⅰ	1・2前			2		○			1						【隔年】
		東アジア歴史文化学講義Ⅱ	1・2後			2		○			1						【隔年】
		東アジア歴史文化学講義Ⅲ	1・2前			2		○			1						【隔年】
		東アジア歴史文化学講義Ⅳ	1・2後			2		○			1						【隔年】
		小計(4科目)			0	8	0		―		2	0	0	0	0	0	
	演習科目	東アジア歴史文化学演習Ⅰ	1・2前			2			○		1						【隔年】
		東アジア歴史文化学演習Ⅱ	1・2後			2			○		1						【隔年】
		東アジア歴史文化学演習Ⅲ	1・2前			2			○		1						【隔年】
		東アジア歴史文化学演習Ⅳ	1・2後			2			○		1						【隔年】
		小計(4科目)			0	8	0		―		2	0	0	0	0	0	
西洋歴史文化学講座	講義科目	西洋歴史文化学講義Ⅰ	1・2前			2		○			1						【隔年】
		西洋歴史文化学講義Ⅱ	1・2後			2		○			1						【隔年】
		西洋歴史文化学講義Ⅲ	1・2前			2		○			1						【隔年】
		西洋歴史文化学講義Ⅳ	1・2後			2		○			1						【隔年】
		小計(4科目)			0	8	0		―		1	0	0	0	0	0	
	演習科目	西洋歴史文化学演習Ⅰ	1・2前			2			○		1						【隔年】
		西洋歴史文化学演習Ⅱ	1・2後			2			○		1						【隔年】
		西洋歴史文化学演習Ⅲ	1・2前			2			○		1						【隔年】
		西洋歴史文化学演習Ⅳ	1・2後			2			○		1						【隔年】
		小計(4科目)			0	8	0		―		1	0	0	0	0	0	
	講義科目	日本文化史特殊講義Ⅰ	1・2前			2		○				1					【隔年】
		日本文化史特殊講義Ⅱ	1・2後			2		○				1					【隔年】
		日本芸術芸能史講義ⅠA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本芸術芸能史講義ⅠB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		日本芸術芸能史講義ⅡA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本芸術芸能史講義ⅡB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		日本芸能史講義Ⅰ	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本芸能史講義Ⅱ	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古文書学講義ⅠA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古文書学講義ⅠB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		古文書学講義ⅡA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古文書学講義ⅡB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本史料学講義Ⅰ	1・2前			2		○								1	【隔年】

総合文化学講座		日本史料学講義Ⅱ	1・2後			2		○								1	【隔年】
		中国思想講義①A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		中国思想講義①B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		中国思想講義②A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		中国思想講義②B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		小計(18科目)			0	36	0	―			1	1	0	0	0	2	
	演習科目	日本文化史特殊演習Ⅰ	1・2前			2			○			1					【隔年】
		日本文化史特殊演習Ⅱ	1・2後			2			○			1					【隔年】
		日本芸術芸能史演習ⅠA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		日本芸術芸能史演習ⅠB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		日本芸術芸能史演習ⅡA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		日本芸術芸能史演習ⅡB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		日本芸能史演習Ⅰ	1・2前			2			○		1						【隔年】
		日本芸能史演習Ⅱ	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古文書学演習ⅠA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		古文書学演習ⅠB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		古文書学演習ⅡA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		古文書学演習ⅡB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日本史料学演習Ⅰ	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本史料学演習Ⅱ	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国思想演習①A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国思想演習①B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国思想演習②A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国思想演習②B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		小計(18科目)			0	36	0	―			1	1	0	0	0	2	
(研究指導)											5	0	0	0	0		
合計 (64科目)					0	112	0				5	1	1	0	0	3	

学位又は称号	修士（歴史文化学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
講義科目18単位以上、演習科目12単位以上、計30単位以上を修得しなければならない。ただし、講義科目の単位には国文学専攻、中国学専攻及び国際日本学研究科国際日本学専攻の単位を合計８単位まで含めることができる。	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学研究科　博士前期課程　国文学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹（助手を除く）教員以外の教員	備考
国文学講座	講義科目	古典文学講義ⅠA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅠB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅡA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅡB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅢA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅢB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅣA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅣB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅤA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅤB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅥA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅥB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅦA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅦB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅧA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅧB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅨA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅨB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅩA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅩB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅩⅠA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅩⅠB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		古典文学講義ⅩⅡA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅡB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅢA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅢB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅣA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅣB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅤA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅤB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅥA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古典文学講義ⅩⅥB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		近代文学講義ⅠA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		近代文学講義ⅠB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		近代文学講義ⅡA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		近代文学講義ⅡB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		近代文学講義ⅢA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		近代文学講義ⅢB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		文芸理論講義ⅠA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		文芸理論講義ⅠB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		文芸理論講義ⅡA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		文芸理論講義ⅡB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		比較文学講義ⅠA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		比較文学講義ⅠB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		比較文学講義ⅡA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		比較文学講義ⅡB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		国語科教育学	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古典文学と国語教育	1・2前			2		○								1	【隔年】
		近代文学と国語教育	1・2前			2		○			1						【隔年】
		小計(49科目)			0	98	0		－		11	0	0	0	0	6	
		古典文学演習ⅠA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅠB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅡA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅡB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅢA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		古典文学演習ⅢB	1・2後			2			○							1	【隔年】

	演習科目	古典文学演習ⅣA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅣB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅤA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅤB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅥA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅥB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅦA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅦB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅧA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅧB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅨA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		古典文学演習ⅨB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		古典文学演習ⅩA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		古典文学演習ⅩB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		古典文学演習ⅩⅠA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅩⅠB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅩⅡA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		古典文学演習ⅩⅡB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		近代文学演習ⅠA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		近代文学演習ⅠB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		近代文学演習ⅡA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		近代文学演習ⅡB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		近代文学演習ⅢA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		近代文学演習ⅢB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		文芸理論演習ⅠA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		文芸理論演習ⅠB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		文芸理論演習ⅡA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		文芸理論演習ⅡB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		比較文学演習ⅠA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		比較文学演習ⅠB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		比較文学演習ⅡA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		比較文学演習ⅡB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		小計(38科目)			0	76	0		―		9	0	0	0	0	4	
日本語学講座	講義科目	日本語学講義ⅠA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本語学講義ⅠB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		日本語学講義ⅡA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本語学講義ⅡB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		日本語学講義ⅢA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本語学講義ⅢB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		日本語学講義ⅣA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本語学講義ⅣB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		小計(8科目)			0	16	0		―		3	0	0	0	0	0	
	演習科目	日本語学演習ⅠA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		日本語学演習ⅠB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		日本語学演習ⅡA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		日本語学演習ⅡB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		日本語学演習ⅢA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		日本語学演習ⅢB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		小計(6科目)			0	12	0		―		3	0	0	0	0	0	
	講義科目	日本文化学講義ⅠA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義ⅠB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義ⅡA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義ⅡB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義ⅢA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義ⅢB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義ⅣA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義ⅣB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本芸術芸能史講義ⅠA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本芸術芸能史講義ⅠB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本芸術芸能史講義ⅡA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本芸術芸能史講義ⅡB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		古文書学講義ⅠA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古文書学講義ⅠB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		古文書学講義ⅡA	1・2前			2		○								1	【隔年】
		古文書学講義ⅡB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		メディア学講義ⅠA	1・2前			2		○								1	【隔年】

総合文化学講座		メディア学講義ⅠB	1・2後			2		○								1	【隔年】
		メディア学講義ⅡA	1・2前			2		○			1						【隔年】
		メディア学講義ⅡB	1・2後			2		○			1						【隔年】
		小計(20科目)			0	40	0	―			1	0	0	0	0	5	
	演習科目	日本文化学演習ⅠA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本文化学演習ⅠB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日本文化学演習ⅡA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本文化学演習ⅡB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日本芸術芸能史演習ⅠA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本芸術芸能史演習ⅠB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日本芸術芸能史演習ⅡA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本芸術芸能史演習ⅡB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		古文書学演習ⅠA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		古文書学演習ⅠB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		古文書学演習ⅡA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		古文書学演習ⅡB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		メディア学演習ⅠA	1・2前			2			○		1						【隔年】
		メディア学演習ⅠB	1・2後			2			○		1						【隔年】
		メディア学演習ⅡA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		メディア学演習ⅡB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		書道演習ⅠA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		書道演習ⅠB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		書道演習ⅡA	1・2前			2			○							1	【隔年】
		書道演習ⅡB	1・2後			2			○							1	【隔年】
		小計(20科目)			0	40	0	―			1	0	0	0	0	5	
(研究指導)											14	0	0	0	0	0	
合計（141科目）					0	282	0				14	0	0	0	0	8	

学位又は称号	修士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
講義科目18単位以上、演習科目12単位以上、計30単位以上を修得しなければならない。ただし、講義科目の単位には中国学専攻、歴史文化学専攻及び国際日本学研究科国際日本学専攻の単位を合計８単位まで含めることができる。	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学研究科　博士前期課程　中国学専攻　）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
中国学講座	講義科目	中国文学講義①A	1・2前			2		○			1						【隔年】
		中国文学講義①B	1・2後			2		○			1						【隔年】
		中国文学講義②A	1・2前			2		○			1						【隔年】
		中国文学講義②B	1・2後			2		○			1						【隔年】
		中国思想講義①A	1・2前			2		○				1					【隔年】
		中国思想講義①B	1・2後			2		○				1					【隔年】
		中国思想講義②A	1・2前			2		○				1					【隔年】
		中国思想講義②B	1・2後			2		○				1					【隔年】
		中国思想講義③A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		中国思想講義③B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		中国思想講義④A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		中国思想講義④B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		中国語学講義①A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		中国語学講義①B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		中国語教育学				2		○								1	
		小計(15科目)			0	30	0		―		1	1	0	0	0	2	
	演習科目	中国文学演習①A	1・2前			2			○		1						【隔年】
		中国文学演習①B	1・2後			2			○		1						【隔年】
		中国文学演習②A	1・2前			2			○		1						【隔年】
		中国文学演習②B	1・2後			2			○		1						【隔年】
		中国文学演習③A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国文学演習③B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国文学演習④A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国文学演習④B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国思想演習①A	1・2前			2			○		1						【隔年】
		中国思想演習①B	1・2後			2			○		1						【隔年】
		中国思想演習②A	1・2前			2			○		1						【隔年】
		中国思想演習②B	1・2後			2			○		1						【隔年】
		中国思想演習③A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国思想演習③B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国思想演習④A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国思想演習④B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国語学演習①A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国語学演習①B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国語学演習②A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国語学演習②B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		小計(20科目)			0	40	0		―		2	0	0	0	0	3	
日本漢学講座	講義科目	日本漢学講義①A	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本漢学講義①B	1・2後			2		○			1						【隔年】
		日本漢学講義②A	1・2前			2		○			1						【隔年】
		日本漢学講義②B	1・2後			2		○			1						【隔年】
		日本漢学講義③A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本漢学講義③B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本漢学講義④A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本漢学講義④B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義①A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義①B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義②A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義②B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義③A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義③B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義④A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文化学講義④B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		漢文学（文学）と国語教育	1・2前			2		○								1	
		漢文学（思想）と国語教育	1・2後			2		○								1	
		小計(18科目)			0	36	0		―		1	0	0	0	0	4	

	演習科目	日本漢学演習①A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本漢学演習①B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日本漢学演習②A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本漢学演習②B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日本文化学演習①A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本文化学演習①B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日本文化学演習②A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日本文化学演習②B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		小計(8科目)			0	16	0		—		0	0	0	0	0	3	
総合文化学講座	講義科目	中国文化学特殊講義①A	1・2前			2		○					1				【隔年】
		中国文化学特殊講義①B	1・2後			2		○					1				【隔年】
		中国文化学特殊講義②A	1・2前			2		○					1				【隔年】
		中国文化学特殊講義②B	1・2後			2		○					1				【隔年】
		中国文化学特殊講義③A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		中国文化学特殊講義③B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		中国文化学特殊講義④A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		中国文化学特殊講義④B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日中比較文化学特殊講義①A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日中比較文化学特殊講義①B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日中比較文化学特殊講義②A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日中比較文化学特殊講義②B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日中比較文化学特殊講義③A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日中比較文化学特殊講義③B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日中比較文化学特殊講義④A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日中比較文化学特殊講義④B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較特殊講義	1・2前			2		○			1						【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較特殊講義	1・2後			2		○			1						【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較特殊講義	1・2前			2		○			1						【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較特殊講義	1・2後			2		○			1						【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較特殊講義	1・2前			2		○								1	【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較特殊講義	1・2後			2		○								1	【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較特殊講義	1・2前			2		○								1	【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較特殊講義	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本語学講義A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本語学講義B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		書道教育学	1・2後			2		○								1	【集中】
		日本文学講義①A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文学講義①B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文学講義②A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文学講義②B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		日本文学講義③A	1・2前			2		○								1	【隔年】
		日本文学講義③B	1・2後			2		○								1	【隔年】
		小計(33科目)			0	66	0		—		1	0	1	0	0	8	
	演習科目	中国文化学演習①A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国文化学演習①B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国文化学演習②A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国文化学演習②B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国文化学演習③A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国文化学演習③B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		中国文化学演習④A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		中国文化学演習④B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日中比較文化学演習①A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日中比較文化学演習①B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日中比較文化学演習②A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日中比較文化学演習②B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日中比較文化学演習③A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日中比較文化学演習③B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		日中比較文化学演習④A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		日中比較文化学演習④B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較演習①A	1・2前			2			○		1						【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較演習①B	1・2後			2			○		1						【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較演習②A	1・2前			2			○		1						【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較演習②B	1・2後			2			○		1						【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較演習③A	1・2前			2			○							1	【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較演習③B	1・2後			2			○							1	【隔年】
		東アジア漢字文化圏比較演習④A	1・2前			2			○							1	【隔年】

	東アジア漢字文化圏比較演習④B	1・2後			2			○							1	【隔年】
	漢詩文実作演習①A	1・2前			2			○							1	【隔年】
	漢詩文実作演習①B	1・2後			2			○							1	【隔年】
	漢詩文実作演習②A	1・2前			2			○							1	【隔年】
	漢詩文実作演習②B	1・2後			2			○							1	【隔年】
	書道演習①A	1・2前			2			○							1	【隔年】
	書道演習①B	1・2後			2			○							1	【隔年】
	書道演習②A	1・2前			2			○							1	【隔年】
	書道演習②B	1・2後			2			○							1	【隔年】
	小計(32科目)			0	64	0		—		1	0	0	0	0	6	
(研究指導)										5	0	0	0	0		
合計（126科目）				0	252	0				5	1	1	0	0	19	

学位又は称号	修士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
講義科目18単位以上、演習科目12単位以上、計30単位以上を修得しなければならない。ただし、講義科目の単位には国文学専攻、歴史文化学専攻及び国際日本学研究科国際日本学専攻の単位を合計８単位まで含めることができる。 ※講義科目は中国学講座、日本漢学講座、総合文化学講座の各講座から2科目以上選択必修すること。演習科目は毎年度1科目以上必ず履修すること。	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際日本学研究科　修士課程　国際日本学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
文学・文化学講座	講義科目	日本芸能・文化論講義Ⅰ	１・2前			2		○								1	【隔年】
		日本芸能・文化論講義Ⅱ	１・2後			2		○								1	【隔年】
		日本芸能・文化論講義Ⅲ	１・2前			2		○								1	【隔年】
		日本芸能・文化論講義Ⅳ	１・2後			2		○								1	【隔年】
		比較文学文化論講義Ⅰ	１・2前			2		○				1					【隔年】
		比較文学文化論講義Ⅱ	１・2後			2		○				1					【隔年】
		比較文学文化論講義Ⅲ	１・2前			2		○			1						【隔年】
		比較文学文化論講義Ⅳ	１・2後			2		○			1						【隔年】
		比較文学文化論講義Ⅴ	１・2前			2		○			1						【隔年】
		比較文学文化論講義Ⅵ	１・2後			2		○			1						【隔年】
		比較芸術学講義Ⅰ	１・2前			2		○			1						【隔年】
		比較芸術学講義Ⅱ	１・2後			2		○			1						【隔年】
		文化人類学講義Ⅰ	１・2前			2		○				1					【隔年】
		文化人類学講義Ⅱ	１・2後			2		○				1					【隔年】
		国際日本学講義Ⅰ	１・2前			2		○								1	【隔年】
		国際日本学講義Ⅱ	１・2後			2		○								1	【隔年】
		国際日本学講義Ⅲ	１・2前			2		○			1						【隔年】
		国際日本学講義Ⅳ	１・2後			2		○			1						【隔年】
		小計(18科目)			0	36	0		－		4	2	0	0	0	2	
	演習科目	国際日本学演習ⅠA	１・2前			2			○							1	【隔年】
		国際日本学演習ⅠB	１・2後			2			○							1	【隔年】
		国際日本学演習ⅡA	１・2前			2			○							1	【隔年】
		国際日本学演習ⅡB	１・2後			2			○							1	【隔年】
		小計(4科目)			0	4	0		－		0	0	0	0	0	1	
メディア表現学講座	講義科目	メディア論講義Ⅰ	１・2前			2		○					1				【隔年】
		メディア論講義Ⅱ	１・2後			2		○					1				【隔年】
		表象文化論講義Ⅰ	１・2前			2		○			1						【隔年】
		表象文化論講義Ⅱ	１・2後			2		○			1						【隔年】
		表象文化論講義Ⅲ	１・2前			2		○			1						【隔年】
		表象文化論講義Ⅳ	１・2後			2		○			1						【隔年】
		情報文化論講義Ⅰ	１・2前			2		○			1						【隔年】
		情報文化論講義Ⅱ	１・2後			2		○			1						【隔年】
		小計(8科目)			0	16	0		－		2	0	1	0	0	0	
	演習科目	国際日本学演習ⅢA	１・2前			2			○		1						【隔年】
		国際日本学演習ⅢB	１・2後			2			○		1						【隔年】
		国際日本学演習ⅣA	１・2前			2			○		1						【隔年】
		国際日本学演習ⅣB	１・2後			2			○		1						【隔年】
		小計(4科目)			0	8	0		－		1	0	0	0	0	0	
社会文化論講座	講義科目	都市文化論講義Ⅰ	１・2前			2		○								1	【隔年】
		都市文化論講義Ⅱ	１・2後			2		○								1	【隔年】
		観光文化論講義Ⅰ	１・2前			2		○			1						【隔年】
		観光文化論講義Ⅱ	１・2後			2		○			1						【隔年】
		歴史社会論講義Ⅰ	１・2前			2		○								1	【隔年】
		歴史社会論講義Ⅱ	１・2後			2		○								1	【隔年】
		小計(6科目)			0	12	0		－		1	0	0	0	0	2	
	演習科目	国際日本学演習ⅤA	１・2前			2			○		1						【隔年】
		国際日本学演習ⅤB	１・2後			2			○		1						【隔年】
		国際日本学演習ⅥA	１・2前			2			○		1						【隔年】
		国際日本学演習ⅥB	１・2後			2			○		1						【隔年】
		小計(4科目)			0	8	0		－		1	0	0	0	0	0	
（研究指導）											7	2	0	0	0		
合計（44科目）					0	84	0				7	2	1	0	0	4	

学位又は称号	修士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
講義科目26単位以上、演習科目４単位以上、計30単位以上修得しなければならない。	１学年の学期区分	２期

ない。 ただし、講義科目の単位には、文学研究科修士課程及び博士前期課程の講義科目の単位を８単位まで含めることができる。	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（文学研究科　修士課程　歴史文化学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
日本歴史文化学講座	講義科目	日本歴史文化学講義Ⅰ		日本文化を理解する上で、中国文化の日本文化への影響を検討することは必須である。そこで本講義では、日本に流入した中国の史料をもとに、狐狸に関する観念を説明した上で、日本における狐信仰や狐憑、狐使について検討していく。狐は、しばしば人間に憑いて病をもたらすと考えられていた。それは古代から近代まで変わらない。ただし、そのありかたや治療法には変化がある。本講義では、古代から中世にかけて、狐による病気とその治療法がどのように変化していったのかを述べ、その歴史的背景について考察していく。	隔年
日本歴史文化学講座	講義科目	日本歴史文化学講義Ⅱ		古代・中世の鬼を中心に検討する。鬼の性質は、実に多様である。その多様な鬼が何をもとにして作り上げられいかなるものだったたのかを、まずは日本に流入した中国の文献を読み解きながら説明する。その上で、日本の歴史書、古記録、説話などに出て来る鬼の分析を行っていく。とりわけ、病をもたらす鬼や島に住む鬼を中心に説明したい。これらの鬼についても、古代から中世にかけて、次第に性質に変化が見られる。どのような変化があり、その歴史的背景とはどのようなものなのかも、述べていきたい。	隔年
日本歴史文化学講座	講義科目	日本歴史文化学講義Ⅲ		テーマ：士族反乱後の地域社会と政論 到達目標：明治初期の対外認識・地域利害を理解し、説明することができる。 授業の概要：本講義では国立国会図書館憲政資料室所蔵「佐々友房関係文書」収録の「西南戦争関係史料」「朝鮮関係史料」を輪読・検討していく。九州の士族階級が唱えた征韓論が、どういったかたちで士族階級の利害を説くものであったのかを検討し、最後の士族反乱である西南戦争に至ったかを見ていく。	隔年
日本歴史文化学講座	講義科目	日本歴史文化学講義Ⅳ		テーマ：条約改正運動と地域社会 到達目標：条約改正交渉という国家目標が地域利害と結びついて、推移していったことを説明できる。 授業の概要：国立国会図書館憲政資料室所蔵「佐々友房関係文書」収録の「条約改正関係史料」を輪読・検討していく。具体的には条約改正が反政府運動・ナショナリズムと結びつき、世論の最大の関心事となった明治20年代の意見書を見ていく。本講義を通じて、明治中期のナショナリズム・対外認識が地域利害と結びついてどのように論じられていったかを明らかにしていきたい。	隔年
日本歴史文化学講座	講義科目	日本歴史文化学講義Ⅴ		太平洋に浮かぶグアムは敵国によって占領された唯一のアメリカの領土であり、日本政府の絶対国防圏の最前線となったことで、日本軍の精鋭部隊が送られて「玉砕」した島である。日米決戦の舞台となった南の島の歴史と記憶を辿ることで、太平洋戦争の歴史を日本、アメリカ、グアムの三者の立場から捉え直した上で、日本人、アメリカ人、グアム人の歴史認識の相違を浮き彫りにし、歴史と和解について考えるための材料と視点を提供する。	隔年
日本歴史文化学講座	講義科目	日本歴史文化学講義Ⅵ		フィリピンはかつてアメリカの植民地だったが、太平洋戦争のときに日本軍によって占領された。日米決戦の舞台となったことで、日本軍、アメリカ軍、フィリピン人いずれも夥しい犠牲者を出した。その歴史と記憶を辿ることで、太平洋戦争の歴史を日本、アメリカ、フィリピンの三者の立場から捉え直した上で、日本人、アメリカ人、フィリピン人の歴史認識の相違を浮き彫りにし、歴史と和解について考えるための材料と視点を提供する。	隔年
日本歴史文化学講座	演習科目	日本歴史文化学演習Ⅰ		「日本歴史文化学講義Ⅰ」の内容を踏まえ、狐信仰や狐憑、狐使について、学生が自身で史料を探し、読み解き、論を立て発表する。その発表を受けて、ディスカッションをする。狐憑や狐について、日本に流入した中国の史料を読み解く。その上で、狐信仰や狐憑、狐に関して書かれている日本の歴史書、古記録、説話の読解及び分析をすすめる。狐憑に関わって、モノノケや生霊についての分析も欠かすことはできない。古代から中世にかけての医療の変遷に関する分析もしながら、考察を深めていく。	隔年

日本歴史文化学講座	演習科目	日本歴史文化学演習Ⅱ		「日本歴史文化学講義Ⅱ」の内容を踏まえ、鬼について、学生が自身で史料を探し、読み解き、論を立て発表する。その発表を受けて、ディスカッションをする。日本に流入した鬼に関する中国の史料、仏教関係の史料を学生が探し、読み解き、検討した上で、古代・中世における鬼について、史料を読解しながら、検討していく。地獄の獄卒としての鬼、疫病や瘧病をもたらす鬼、鬼の姿をすると考えられたモノノケ、鬼子と呼ばれた形態異常児、鬼と見なされた異国からの漂流者など、様々な「鬼」に関する分析を史料の読解を通して行う。	隔年
日本歴史文化学講座	演習科目	日本歴史文化学演習Ⅲ		テーマ：明治初年における北海道の開拓政策と対露認識 到達目標：明治初年の欧米列強の動向を踏まえて日本の対外政策がどう推移していったかを説明することができる。 授業の概要：黎明館所蔵「黒田清隆関係文書」を教員も含む参加者全員で翻刻し、歴史的背景を読み解いていく。黒田清隆が長官・次官を務めた北海道開拓使に関する史料を読み進める。当該時期（1870－1882）の北海道は、開拓地という意味合いに留まらず、ロシアの極東政策の最前線でもあった。そうしたことからロシアの極東政策がどういった推移を見せ、政府部内に認識されていったかを検討していく。	隔年
日本歴史文化学講座	演習科目	日本歴史文化学演習Ⅳ		テーマ：明治初年における樺太政策と対露認識 到達目標：ロシアの極東政策など世界史的観点から史料の意義を見出して検討・紹介する知識を身につける。 授業の概要：黎明館所蔵「黒田清隆関係文書」を教員も含む参加者全員で翻刻し、歴史的背景を読み解いていく。本演習では1870年から翌年にかけて政府部内に置かれた樺太開拓使に関する史料を読み進める。この時期の樺太は明確な国境線が引かれることがなく、日露雑居と呼ばれる状況であった。そうしたなかで、日露両国間においてどのような交渉や問題が生じていたかを見ていくことが本演習の目的である。	隔年
日本歴史文化学講座	演習科目	日本歴史文化学演習Ⅴ		日記は古来数多く書かれ、歴史史料として用いられてきたが、とくに近現代以降の学校教育、軍隊教育を通して増加し、書き手や文体が多様化した。そのなかで軍人の日記が占める割合は大きい。そこで個々の兵士たちの書いた日記の輪読と考察を通して、日記を歴史史料として批判的に読む方法を身につけるとともに、日本近現代史に関する知識を深め、一億総懺悔や指導者責任観といった我が国における戦争観の特徴を理解することを目指す。	隔年
日本歴史文化学講座	演習科目	日本歴史文化学演習Ⅵ		オーラルヒストリーとは、聞き取りによって得られた口述資料を用いた歴史叙述のことであり、日本では明治期から政治史を中心に行われてきた。それが戦後になると植民地や戦争体験のオーラルヒストリーが登場し、研究領域も拡大した。本演習では、口述資料を用いて歴史叙述する方法を身につける。とくに筆者がインドネシアで元残留日本兵に行った聞き取りを録画した映像を読み解くことで、日本人の植民地経験、戦争経験を理解することを目指す。	隔年
東アジア歴史文化学講座	講義科目	東アジア歴史文化学講義Ⅰ		アジア・太平洋戦争後にソ連軍によってシベリアに連行された日本人の寒さ・飢え・重労働の歴史については知られているが、同様の悲劇が東南アジアでもあったことはあまり知られていない。そこで東南アジア各地に取り残された日本人の歴史を明らかにし、歴史と和解について考えるための材料と視点を提供する。また、東南アジアから遅れて日本に帰還した日本人によって、日本社会でどのような東南アジア観が広まったのかを考察し、私たちの歴史認識を相対化することを目指す。	隔年
東アジア歴史文化学講座	講義科目	東アジア歴史文化学講義Ⅱ		アジア・太平洋戦争中に日本は東南アジアを占領した。その戦後処理からはじまった戦後日本と東南アジアの関係史を概観する。そのなかでも戦争中は支配-被支配関係にあった日本とインドネシアが、戦後の賠償交渉から国交正常化を経て、特殊関係と称されるほど緊密化し、反日暴動などの問題を孕みながら、援助-被援助関係として再編されていく過程を考察する。そしてそれを通じて、日本による東南アジア関与や開発援助の成果と課題を検証する。	隔年
東アジア歴史文化学講座	講義科目	東アジア歴史文化学講義Ⅲ		【テーマ】日本人著書における中国人の序文からみた日中学術交流 【到達目標】（１）日本漢文学に対する新たな視点を共有し、西洋と異なる、漢字文化圏の知識人の学術交流の伝統を再確認する。 （２）資料読解能力の向上を図る 授業の概要：明治時代、中国文化人は数百冊にわたる日本人の著作のために序文・跋文を寄せた。それは漢字文化圏における未曾有のことで、日中学術交流の特色として注目の的となっている。本授業は、主に清国の外交官や官僚たちが日本人の著書のために書いた序文・跋文の歴史を概観する。	隔年

東アジア歴史文化学講座	講義科目	東アジア歴史文化学講義Ⅳ		【テーマ】日本人著書における中国人の序文からみた日中学術交流 【到達目標】（１）日本漢文学に対する新たな視点を共有し、西洋と異なる、漢字文化圏の知識人の学術交流の伝統を再確認する。 （２）資料読解能力の向上を図る 授業の概要：明治時代、中国文化人は数百冊にわたる日本人の著作のために序文・跋文を寄せた。それは漢字文化圏における未曾有のことで、日中学術交流の特色として注目の的となっている。本授業は、主に清国の民間文化人たちが日本人の著書のために書いた序文・跋文の歴史を概観する。	隔年
東アジア歴史文化学講座	演習科目	東アジア歴史文化学演習Ⅰ		アジア・太平洋戦争後に東南アジア各地に抑留された日本人たちの日記と回想録を読み解きながら、歴史史料を批判的に読む方法を身につける。また、現地での過酷な抑留経験が彼らにどのような自己変容をもたらしていたのかを検討し、ソ連軍によるシベリア抑留に比べてあまり知られていない東南アジア抑留の実態を明らかにする。そしてそれらを通じて、日本の3年半にわたる東南アジア占領の意味について、従来の日本軍政の「衝撃」とは異なる文化交流の視角から再考する。	隔年
東アジア歴史文化学講座	演習科目	東アジア歴史文化学演習Ⅱ		アジア・太平洋戦争後に日本が退場した後の東南アジアでは開発独裁政権が誕生した。たとえばインドネシアではその過程で政変と大量虐殺が起こり、その歴史と記憶は学校教育やメディアを通して体制維持のために利用されてきた。そこで開発独裁の体制維持のために歴史と記憶がどのように用いられてきたのかを明らかにするとともに、インドネシア最大の歴史認識問題から加害者側と被害者側に分断された社会における和解について考える。	隔年
東アジア歴史文化学講座	演習科目	東アジア歴史文化学演習Ⅲ		【テーマ】日本人著書における中国人の序文（史料読解） 【到達目標】（１）日本漢文学に対する新たな視点を共有し、西洋と異なる、漢字文化圏の知識人の学術交流の伝統を再確認する。 （２）草書を読む能力、文献整理や読解の能力、問題解決能力の向上をめざす。 授業の概要：明治時代、中国文化人は数百冊にわたる日本人の著作のために序文・跋文を寄せた。それは漢字文化圏における未曾有のことで、日中学術交流の特色として注目の的となっている。本授業は、主に清国から来日した外交官や国内に住む官僚たちが書いた序文・跋文を読解する。	隔年
東アジア歴史文化学講座	演習科目	東アジア歴史文化学演習Ⅳ		【テーマ】日本人著書における中国人の序文（史料読解） 【到達目標】（１）日本漢文学に対する新たな視点を共有し、西洋と異なる、漢字文化圏の知識人の学術交流の伝統を再確認する。 （２）草書を読む能力、文献整理や読解の能力、問題解決能力の向上をめざす。 授業の概要：明治時代、中国文化人は数百冊にわたる日本人の著作のために序文・跋文を寄せた。それは漢字文化圏における未曾有のことで、日中学術交流の特色として注目の的となっている。本授業は、主に清国から来日した民間文化人（漢語教師・民間文化人・書画家）が書いた序文・跋文を読解する。	隔年
西洋歴史文化学講座	講義科目	西洋歴史文化学講義Ⅰ		テーマ：近代ヨーロッパ外交秩序の展開史―欧日交流を遠望して― 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させ、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。以上の作業をつうじて、日本と西洋世界の関係史をグローバルな視野で理解するとともに、通説を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力を強化し、歴史研究をつうじて異文化理解のための学的態度をはぐくむ。 授業の概要：本講義では、「西洋歴史文化学演習Ⅰ」と連動しつつ、欧米諸国が日本という異文化と遭遇し、関係を構築していく歴史展開を理解するための歴史的前提をめぐる主要問題について基礎的考察をおこなう。そのために、ウェストファリア体制以後のヨーロッパ外交秩序の展開史を追いつつ、各国の外交制度・外交政策の変遷とその特質にアプローチする。	隔年
西洋歴史文化学講座	講義科目	西洋歴史文化学講義Ⅱ		テーマ：近代ヨーロッパ・アメリカのアジア進出と異文化理解 欧米諸国が日本という異文化と遭遇し、関係を構築していく歴史の展開を理解し、異文化や他者への理解を深める。これにより、既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。以上をもって、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。 授業の概要：「西洋歴史文化学演習Ⅱ」と連動しつつ、大航海時代以降の欧米列強による対外進出を考察対象とする。欧米列強の中で活発にアジア進出を果たした英米仏の動向を概観し、かつ各国の外交制度・外交政策の変遷とその特質にアプローチする。以上によって、当該期欧米列強の異文化理解にみる歴史的特質に迫る。	隔年

西洋歴史文化学講座	講義科目	西洋歴史文化学講義Ⅲ		テーマ：（西洋近代政治史）近代フランスにおけるボナパルティスム 人民主権に基礎をおく政治体制とその思想であるボナパルティスムに着目した近代フランス政治史の検討をつうじて、史実吟味、研究書の批判的読解、史料論・方法論の検討といった歴史学の基礎的作業に触れ、みずからの研究テーマに即した観点や方法論などに関する視野を広げ、もって異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。 授業の概要：フランス史の展開を考察するうえで、「パリ中心史観」から脱却し、地域社会（ローカルレベル）の歴史的役割をより正確に把握することはきわめて重要である。本講義では、ボナパルティスムの検討を通じて、近代フランスの国家と地域社会の関係性に焦点をあてつつ、中央権力と地域権力の関係という現代にも通ずる諸問題を史的にかつ多角的に考察する。	隔年
西洋歴史文化学講座	講義科目	西洋歴史文化学講義Ⅳ		テーマ：ヨーロッパワイン文化と近代日本の交感 主として19世紀以降の欧米列強によるアジア・日本進出に関連して、ワイン文化の視点から欧日の異文化間関係を歴史学的に考究する。もって、現代の理解に不可欠な歴史的考察力を養い、かつ史実吟味、研究書の批判的読解、史料論・方法論の検討といった歴史学の基礎的作業に触れる。 授業の概要：ワイン文化は、16世紀後半までにはヨーロッパから日本にもたらされ、明治期になるとフランスのワイン醸造技術により国産ワイン産業の基礎が築かれることとなる。本講義では、（1）江戸時代までの日本のワイン経験、および明治以降の国産ワイン産業の展開、（2）「テロワール」論に即したワインづくりの思想、（3）EUワイン法の中核をなす原産地統制呼称制度および地理的名称（GI）制度へのプロセスなどを検討する。	隔年
西洋歴史文化学講座	演習科目	西洋歴史文化学演習Ⅰ		テーマ：近代ヨーロッパ外交秩序の展開史（資料読解）―欧日交流を遠望して― 何よりもまず、欧米言語による一次史料・研究論文等の読解力を向上させることが最大の目標である。「西洋歴史文化講義Ⅰ」での学修をふまえつつ、第一線で活躍する歴史研究者の論考を英仏原書の地道な読解作業と史料に関する討論をつうじて、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。 授業の概要：歴史研究書を読む場合、それがどのような一次史料にもとづいて議論を展開しているのかということには常に注意を払う必要がある。本演習では、実証性の高い研究書を英仏原書で読むことをつうじて、当該期の近代ヨーロッパ外交秩序展開史についての知識を増やすとともに、史料分析やそれにもどづく歴史記述などの“歴史の作法”に習熟する。英仏文献の読解にもとづき、欧米諸国が日本という異文化と遭遇し、関係を構築していく歴史の展開を理解する。	隔年
西洋歴史文化学講座	演習科目	西洋歴史文化学演習Ⅱ		テーマ：近代ヨーロッパ・アメリカのアジア進出と異文化理解 第一線で活躍する歴史研究者の論考を英仏原書の地道な読解作業と史料に関する討論をつうじて、欧米諸国が日本という異文化と遭遇し、関係を構築していく歴史の展開を理解し、異文化への理解や異文化間の交渉についての諸相を考究しつつ、異文化や他者への理解を深める。これにより、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。 授業の概要：「西洋歴史文化学講義Ⅱ」での学修内容をふまえつつ、大航海時代以降の欧米列強による対外進出を考察対象に地道なテクスト読解をおこなう。とりわけ、英米仏の動向を概観し、かつ各国の外交制度・外交政策の変遷とその特質にアプローチする。	隔年
西洋歴史文化学講座	演習科目	西洋歴史文化学演習Ⅲ		テーマ：近代フランスにおけるボナパルティスム 人民主権論に基礎をおく政治体制とその思想であるボナパルティスムの検討をつうじて、歴史的考察力を養い、かつ創造的議論の構築力を鍛錬する。そのために、史実吟味、研究書の批判的読解、史料論・方法論の検討といった歴史学の基礎的作業に触れ、みずからの研究テーマに即した観点や方法論などに関する視野を広げ、異文化・他者を理解しようとする学的態度をさらに向上させる。 授業の概要：フランス史の展開を考察するうえで、「パリ中心史観」から脱却するとともに、地域社会（ローカルレベル）の歴史的役割をより正確に把握することはきわめて重要である。本演習では、「西洋歴史文化講義Ⅲ」と連動しつつ、英仏原書の地道な読解作業と史料に関する討論をつうじて、近代フランスの国家と地域社会の関係性にも焦点をあてつつ、ボナパルティスムという政治思想ないしその体制の問題を検討する。	隔年

西洋歴史文化学講座	演習科目	西洋歴史文化学演習Ⅳ		テーマ：ヨーロッパワイン文化と近代日本の交感 主として19世紀以降の欧米列強によるアジア・日本進出とその歴史的影響をふまえつつ、ワイン文化の視点から欧日の異文化間関係を歴史学的に考究する。これによって、みずからの研究テーマに即した観点や方法論などに関する視野を広げ、異文化・他者を理解しようとする学的態度をさらに向上させる。 授業の概要：16世紀後半までにはヨーロッパからもたらされたワイン文化は、日本に大きな影響を与え、明治期にはフランスのワイン醸造技術をもとに国産ワイン産業の基礎が築かれた。本演習では、「西洋歴史文化講義Ⅳ」での学修をふまえつつ、英仏原書の地道な読解作業と史料に関する討論をつうじて、江戸時代までの日本のワイン経験、および明治以降の国産ワイン産業の展開を考察し、もってEUワイン法の思想的中核をなす原産地統制呼称および「テロワール」論、地理的名称（GI）論などへといたるプロセスを検討する。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本文化史特殊講義Ⅰ		この講義では、近代の日本社会における政治、経済、文化、社会、メディア、ナショナリズム、更には国際情勢など様々な要素に影響されながら成立してきた無教会主義キリスト教の思想的な特徴について、前半では内村鑑三の著作や雑誌の記事を、後半では内村鑑三の弟子が著した記事をとりあげる。その際、内村鑑三とその弟子たちの人間関係や、彼らを取り巻く政治的、経済的、社会的、文化的な背景に着目する。内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教は、近代の日本において成立した宗教思想であり、宗教運動であった。また、無教会主義キリスト教は雑誌というメディアによって成立した新しい宗教的コミュニティでもあり、内村自身も「紙上の教会」と呼んでいた。さらに、内村鑑三とその弟子たちのキリスト教思想はナショナリズムや国際情勢との関わりの中で形成されていったことも指摘されている。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本文化史特殊講義Ⅱ		本講義の前半では、内村鑑三の非戦思想の変化の特徴と背景を内村のテクストを中心に読み解いていく。また、講義の後半では、弟子たちが内村の非戦論の思想をどのように受容し、満州事変や日中戦争、太平洋戦争といった一連の戦争に対して如何に向き合い、それぞれの平和論を打ち立てつつ、行動していったのか、について弟子たちのテクストを講読しながら考察する。内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教は、近代の日本において成立した宗教思想であり、宗教運動であった。無教会主義キリスト教の主要な特徴の一つに非戦論が挙げられるが、内村鑑三は当初から非戦主義者であったわけではない。無教会主義の思想を確立する過程で義戦論から非戦論へと「転向」し、その非戦論の内容も20世紀前半において変化した。本講義の中では内村鑑三とその弟子たちの人間関係や、近代日本のキリスト教を取り巻く政治的、経済的、社会的、文化的な背景に着目する。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本芸術芸能史講義ⅠA		近世の芸能興行を理解するにあたって必要となる、興行者側の問題、作劇上の資料、芝居世界の年中行事などの慣習、芝居を取り上げた出版物などを講読して、近世の歌舞伎、浄瑠璃、落語などを理解していく。幕府・公儀側から通達された触書の類も参照することで、当時の芸能がどのような環境下で行われていたかについても知識を深める。現代に演じられている伝統芸能を見聞してその特質を把握することとあわせて、芸能の変遷を総合的に理解することを目標とする。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本芸術芸能史講義ⅠB		近世芸能史を中心に講義するが、芸能に絞って記された文献資料ではなく、社会風俗の記録、文人の日記、年中行事の紹介といった各種の文献記録を読み解き、その中で芸能がどのように、またどの程度扱われているかを把握することで、芸能が演じられた時代の社会的背景を理解する。江戸と京都・大坂といった都市間の気風や風習の相違にも着目する。また、現在演じられている伝統芸能を見聞してその特質を把握することとあわせて、芸能の変遷や位置付けを総合的に理解することを目標とする。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本芸術芸能史講義ⅡA		近世の芸能興行を理解するにあたって必要となる、興行者側の問題、作劇上の資料、芝居世界の年中行事などの慣習、芝居を取り上げた出版物などを講読して、近世の歌舞伎、浄瑠璃、落語などを理解していく。幕府・公儀側から通達された触書の類も参照することで、当時の芸能がどのような環境下で行われていたかについても知識を深める。本講義では主に近世後期の大坂の狂言作者が書き記した文献を講読する予定である。現代に演じられている伝統芸能を見聞してその特質を把握することとあわせて、芸能の変遷を総合的に理解することを目標とする。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本芸術芸能史講義ⅡB		近世芸能史を中心に講義するが、芸能に絞って記された文献資料ではなく、社会風俗の記録、文人の日記、年中行事の紹介といった各種の文献記録を読み解き、その中で芸能がどのように、またどの程度扱われているかを把握することで、芸能が演じられた時代の社会的背景を理解する。江戸と京都・大坂といった都市間の気風や風習の相違にも着目する。本講義では主に近世後期江戸の狂言作者が書き記した文献を講読する予定である。また、現在演じられている伝統芸能を見聞してその特質を把握することとあわせて、芸能の変遷や位置付けを総合的に理解することを目標とする。	隔年

総合文化学講座	講義科目	日本芸能史講義Ⅰ		歌舞伎を中心とする江戸期の文献を講読し、話題となった作品、世間での評判、役者個々の特徴などを知ることで、当時の芸能・文化への理解を深める。文献内容と関連する歌舞伎・浄瑠璃作品を紹介するほか、近世後期に作られた講談・落語等の話芸にも触れる。文献読解力を身に着け、江戸期の芸能・文化を広く理解することを目的とする。本講義では主に江戸の狂言作者三升屋二三治による『紙屑籠』の前半を講読し、内容を理解するとともに文中で扱われる「助六」「菅原伝授手習鑑」等の芸能作品にも触れる。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本芸能史講義Ⅱ		歌舞伎を中心とする江戸期の文献を講読し、話題となった作品、世間での評判、役者個々の特徴などを知ることで、当時の芸能・文化への理解を深める。文献内容と関連する歌舞伎・浄瑠璃作品を紹介するほか、近世後期に作られた講談・落語等の話芸にも触れる。文献読解力を身に着け、江戸期の芸能・文化を広く理解することを目的とする。本講義では主に江戸の狂言作者三升屋二三治による『紙屑籠』の後半を講読し、内容を理解するとともに文中で扱われる「仮名手本忠臣蔵」「京鹿子娘道成寺」等の芸能作品にも触れる。	隔年
総合文化学講座	講義科目	古文書学講義ⅠA		授業のテーマ及び到達目標 古代から中世までの文学作品を素材として、くずし字の解読、および写本系統などの書誌学的な情報の調べ方に習熟し、史（資）料を正しく解釈する能力・技術を養う。ここでは主として中古の文学作品を素材とする。 授業の概要 授業では具体的な作品として『伊勢物語』『源氏物語』などの中古文学の作品の写本を素材として、くずし字（変体仮名・漢字）をひと文字づつ正確に読解・翻刻（活字化）し、ほかの写本との相違点・書写系統などを確認していく。	隔年
総合文化学講座	講義科目	古文書学講義ⅠB		授業のテーマ及び到達目標 古代から中世までの、歴史史料としての古記録（日記）を素材とし、くずし字の解読、および写本系統などの書誌学的な情報の調べ方に習熟し、史料を正しく解釈する能力・技術を養う。 授業の概要 授業では具体的な記録として『御堂関白記』『小右記』などの平安期を中心とする貴族日記の自筆本や写本を素材とし、くずし字（主として漢字）をひと文字づつ正確に解読・翻刻（活字化）し、自筆本のありかたやほかの写本との関係などを確認していく。	隔年
総合文化学講座	講義科目	古文書学講義ⅡA		授業のテーマ及び到達目標 古代から近世までに成立した短冊・懐紙・奥書など様々なジャンルの資料を素材とし、くずし字の解読・翻刻（活字化）・解釈などの古文書学的・書誌学的な情報の調べ方の技術習得を前提とし、史（資）料を正しく解釈する能力を養う。 授業の概要 授業では具体的な作品として『短冊手鑑』『懐紙手鑑』『新葉和歌集』などを素材として、短冊・懐紙・歌集奥書などの和歌関係独自のくずし字（変体仮名・漢字）を正確に解読・翻刻し、その内容解釈や素材の特徴などを確認していく。	隔年
総合文化学講座	講義科目	古文書学講義ⅡB		授業のテーマ及び到達目標 古代から近世までに成立した往来物（教科書）などを素材とし、特に漢字のくずし字の読解・翻刻（活字化）の技術に習熟し、歴史史料を正しく活用する能力を養う。 授業の概要 授業では具体的な素材として『明衡往来』『庭訓往来』をとりあげ、解読・翻刻はもとより、日本漢文としての訓読方法の習得を重点的に行う。テキストは江戸期に刊行された版本のコピーを利用するが、和本の構造を知るために、自身のテキストとして和綴じ本の作成も行う。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本史料学講義Ⅰ		授業のテーマ及び到達目標 日本史研究を行ううえで必要となる素材（資史料）を、日本史料学の名称のもとに論ずる。特に古文書をとりあげる。古文書の内容や機能はもとより、その素材である紙・墨・筆跡などの外形的観点からも検討し、調査方法などもあわせて学ぶ。到達目標は、古文書の翻刻や解釈のみならず、モノとしての古文書の扱いや調査方法も習得することである。 授業の概要 多様なジャンル（公式様・公家様・武家様ほか、公家文書・寺社文書・武家文書・地下文書）の古文書の様式論などを深く掘り下げて、古文書の果たした機能について、外形的な側面も含め複製や写真などを通じて理解を深めるための講義を行う。	隔年
総合文化学講座	講義科目	日本史料学講義Ⅱ		授業のテーマ及び到達目標 日本史研究を行ううえで必要となる素材（資史料）を、日本史料学の名称のもとに論ずる。特に古代～中世の古記録（日記）をとりあげる。本講義の到達目標は、古代末～中世にかけての皇族・貴族の日記読解を通じ、歴史像構築のため技術を身に着けるとともに、古記録・古文書双方の活用を図る方法論を習得することにある。 授業の概要 古記録読解のための基礎的知識の習得と、それらを活用した古記録の具体的な特質の理解と読解法とを学ぶ。関係する参考書・データベースの活用法や、それらを駆使した読解技術の習得・歴史像構築について、具体的な記事に即して行う。古記録の形態として用いられた巻子本の取り扱いや、調査方法についても学ぶ。	隔年

総合文化学講座	講義科目	中国思想講義①A		本講座は、前漢期に成立した『淮南子』を取り上げ、高誘等による注釈を含めた講読を通じて、中国思想史上の諸問題について検討することにより、大学院生の基礎的な研究能力の向上を目指すものである。とくに古典学としての文献操作、訓詁学にもとづく一字一句の厳密な解釈とともに、哲学系資料の解釈に必要不可欠な思弁的態度の涵養を重視する。あわせて先行研究の整理と検討をおこなうことで、実践的な研究態度への習熟を目指すことにする。	隔年
総合文化学講座	講義科目	中国思想講義①B		本講座は、①Aに引き続き、前漢期に成立した『淮南子』を取り上げ、高誘等による注釈を含めた講読を通じて、中国思想史上の諸問題について検討することにより、大学院生の基礎的な研究能力の向上を目指すものである。とくに古典学としての文献操作、訓詁学にもとづく一字一句の厳密な解釈とともに、哲学系資料の解釈に必要不可欠な思弁的態度の涵養を重視する。あわせて先行研究の整理と検討をおこなうことで、実践的な研究態度への習熟を目指すことにする。	隔年
総合文化学講座	講義科目	中国思想講義②A		本講座は、儒教経典の筆頭に位置づけられる『周易』を取り上げ、韓康伯注の講読を通じて、中国思想史上の諸問題について検討することにより、大学院生の基礎的な研究能力の向上を目指すものである。とくに古典学としての文献操作、訓詁学にもとづく一字一句の厳密な解釈とともに、哲学系資料の解釈に必要不可欠な思弁的態度の涵養を重視する。あわせて先行研究の整理と検討をおこなうことで、実践的な研究態度への習熟を目指すことにする。	隔年
総合文化学講座	講義科目	中国思想講義②B		本講座は、②Aに引き続き、儒教経典の筆頭に位置づけられる『周易』を取り上げ、韓康伯注の講読を通じて、中国思想史上の諸問題について検討することにより、大学院生の基礎的な研究能力の向上を目指すものである。とくに古典学としての文献操作、訓詁学にもとづく一字一句の厳密な解釈とともに、哲学系資料の解釈に必要不可欠な思弁的態度の涵養を重視する。あわせて先行研究の整理と検討をおこなうことで、実践的な研究態度への習熟を目指すことにする。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本文化史特殊演習Ⅰ		内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教は、近代の日本において成立した宗教思想であり、宗教運動であった。また、無教会主義キリスト教は同時代の様々な人々に受容されるとともに、多様な文化や社会的な事象との関係性を有していた。この授業では、近代の日本社会における政治、経済、文化、社会、メディア、ナショナリズム、更には国際情勢など様々な要素に影響されながら成立してきた無教会主義キリスト教と同時代の様々な文化や社会的事象との関係について、内村鑑三や彼の弟子たちのテクスト（書籍や雑誌の記事など）の読解と分析、考察を行い、発表する。テクストはPDFファイルまたはコピーを事前に配布するので、当該授業までに読んでいることを前提にディスカッションと解説を行う。なお、授業計画や内容は変更することもある。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本文化史特殊演習Ⅱ		内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教は、近代の日本において成立した宗教思想であり、宗教運動であった。また、無教会主義キリスト教は雑誌というメディアによって成立した新しい宗教的コミュニティでもあり、内村自身も「紙上の教会」と呼んでいた。さらに、内村鑑三とその弟子たちのキリスト教思想はナショナリズムや国際情勢との関わりの中で形成されていったことも指摘されている。この授業では、近代の日本社会における政治、経済、文化、社会、メディア、ナショナリズム、更には国際情勢など様々な要素に影響されながら成立してきた無教会主義キリスト教の思想的な特徴について、内村鑑三や彼の弟子たちのテクスト（書籍や雑誌の記事など）を読解し、分析と考察を行い、発表する。その際、内村鑑三と弟子たちの人間関係や、彼らを取り巻く政治的、経済的、社会的、文化的な背景に着目する。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本芸術芸能史演習ⅠA		伝統芸能理解の背景となる江戸期の年中行事に関する文献を講読する。文献読解力と調査の基本を習得し、江戸期の芸能・文化への理解を高める。主に近世後期江戸歌舞伎界の年中行事や慣習を記した『絵本戯場年中鏡』の前半を使用し、歌舞伎世界の各種行事をはじめ、作者など舞台裏の活動を記す記事を講読し、受講者が分担して資料内容に関する資料を作成して報告し、当時の様相を確認する。文中に見られる「三番叟」「菅原伝授手習鑑」等の作品を紹介して内容を理解するとともに、関連する講談・落語等の話芸作品にも触れる。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本芸術芸能史演習ⅠB		伝統芸能理解の背景となる江戸期の年中行事に関する文献を使用して演習を行う。文献読解力と調査の基本を習得し、江戸期の芸能・文化への理解を高める。主に近世後期江戸歌舞伎界の年中行事や慣習を記した『絵本戯場年中鏡』の後半を講読し、歌舞伎世界の各種行事をはじめ、作者など舞台裏の活動を記す記事を講読し、受講者が分担して語釈や時代背景等の資料を作成して当時の様相を確認する。文中に見られる「ひらかな盛衰記」「山門五三桐」等の作品を紹介して内容を理解するとともに、関連する講談・落語等の話芸作品にも触れる。	隔年

総合文化学講座	演習科目	日本芸術芸能史演習ⅡA		近世の芸能興行を理解するにあたって必要となる、興行者側の問題、作劇上の資料、芝居世界の年中行事などの慣習、芝居を取り上げた出版物などを講読して、近世の歌舞伎、浄瑠璃、落語などを理解していく。幕府・公儀側から通達された触書の類も参照することで、当時の芸能がどのような環境下で行われていたかについても知識を深める。本演習では主に近世後期大坂の寄席小屋成立を中心とした落語史に関する文献を使用し、受講者が分担して発表資料を作成して報告する。現代に演じられている伝統芸能を見聞してその特質を把握することとあわせて、芸能の変遷を総合的に理解することを目標とする。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本芸術芸能史演習ⅡB		近世の芸能興行を理解するにあたって必要となる、興行者側の問題、作劇上の資料、芝居世界の年中行事などの慣習、芝居を取り上げた出版物などを講読して、近世の歌舞伎、浄瑠璃、落語などを理解していく。幕府・公儀側から通達された触書の類も参照することで、当時の芸能がどのような環境下で行われていたかについても知識を深める。本演習では主に近世後期江戸の職業落語成立を中心とした落語史に関する文献を使用し、受講者が分担して語釈や時代背景に関する資料を作成して報告する。現代に演じられている伝統芸能を見聞してその特質を把握することとあわせて、芸能の変遷を総合的に理解することを目標とする。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本芸能史演習Ⅰ		伝統芸能理解の背景となる江戸期の年中行事に関する文献を講読する。文献読解力と調査の基本を習得し、江戸期の芸能・文化への理解を高める。主に近世後期大坂の年中行事や慣習を記した『浪花十二月画譜』の上巻を講読し、正月の各種行事をはじめ、祝福芸や初芝居など芸能の記事を講読し、当時の様相を確認する。それ以降も二月の初午、三月の彼岸・花見、などの内容を理解するとともに、関連する歌舞伎・落語等の芸能作品に触れる。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本芸能史演習Ⅱ		伝統芸能理解の背景となる江戸期の年中行事に関する文献を講読する。文献読解力と調査の基本を習得し、江戸期の芸能・文化への理解を高める。主に近世後期大坂の年中行事や慣習を記した『浪花十二月画譜』の下巻を講読し、当時の様相を確認する。盆行事をはじめ、秋の紅葉狩、師走の餅つきなど、歌舞伎・人形浄瑠璃・落語等の作品中でも描かれるものはその紹介を通して内容を理解するとともに、関連する芸能自体の理解をも深めることを目的とする。	隔年
総合文化学講座	演習科目	古文書学演習ⅠA		授業のテーマ及び到達目標 古代～中世の古文書の読解を行う。本演習の到達目標は、古文書の読解を通じて、解釈はもとよりその背景としての社会状況などを明らかにし、古文書を活用した歴史像構築ができるスキルを身に着けることである。 授業の概要 本講義では、具体的な史料として中世の公家文書を代表する摂関家九条家に伝来した『九条家文書』の読解を行う。同文書は、平安時代から江戸時代の九条家にとって重要な文書で、朝廷から発給された古文書の原本・写本である。これらの古文書の読み込み作業を通じて、古代～中世の公家文書の特色を理解し分析・活用法などを学ぶ。	隔年
総合文化学講座	演習科目	古文書学演習ⅠB		授業のテーマ及び到達目標 古代～中世の古文書の読解を行う。本演習の到達目標は、古文書の読解を通じて、解釈はもとよりその背景としての社会状況などを明らかにし、古文書を活用した歴史像構築ができるスキルを身に着けることである。 授業の概要 本講義では、具体的な史料として関東地方の中世武家文書のひとつ常陸国の『真壁文書』の読解を行う。同文書は、鎌倉時代から戦国時代の真壁氏にとって重要な文書で、藤原頼経下文をはじめとする原本・写本である。これらの古文書の読み込み作業を通じて、中世武家文書の特色を理解し分析・活用法などを学ぶ。	隔年
総合文化学講座	演習科目	古文書学演習ⅡA		授業のテーマ及び到達目標 古代～中世の古文書の読解を行う。本演習の到達目標は、古文書の読解を通じて、解釈はもとよりその背景としての社会状況などを明らかにし、古文書を活用した歴史像構築ができるスキルを身に着けることである。 授業の概要 本講義では、具体的な史料として中世の公家文書を代表する摂関家九条家に伝来した『九条家文書』の読解を行う。同文書は、平安時代から江戸時代の九条家にとって重要な文書で、朝廷から発給された古文書の原本・写本である。これらの古文書の読み込み作業を通じて、公家文書の特色を理解し分析・活用法などを学ぶ。	隔年

総合文化学講座	演習科目	古文書学演習ⅡB		授業のテーマ及び到達目標 古代～中世の古文書の読解を行う。本演習の到達目標は、古文書の読解を通じて、解釈はもとよりその背景としての社会状況などを明らかにし、古文書を活用した歴史像構築ができるスキルを身に着けることである。 授業の概要 本講義では、具体的な史料として中世の地下（じげ）文書を代表する近江国（滋賀県）の『菅浦文書』の読解を行う。同文書は、室町時代から戦国時代にかけての惣村文書で、菅浦荘周辺の社会状況を伝える文書群である。これらの古文書の読み込み作業を通じて、惣村などの地下文書の特色を理解し分析・活用法などを学ぶ。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本史料学演習Ⅰ		授業のテーマ及び到達目標 日本史料学の一環として、日本史料学講義Ⅰの履修をうけ、古文書の読解を行う。本演習の到達目標は、古文書の読解を通じて、解釈はもとよりその背景としての社会状況などを明らかにし、古文書を活用した歴史像構築ができるスキルを身に着けることである。ここでは主として中世の古文書を対象とする。 授業の概要 本講義では、具体的な史料として中世武家文書を代表する『島津家文書』のうち『歴代亀鑑』所収の古文書の読解を行う。同文書は、鎌倉時代から室町時代の島津家にとって重要な文書を集めて折帖にしたもので、源頼朝下文をはじめとする原本群である。これらの古文書の読み込み作業を通じて、中世武家文書の特色を理解し分析・活用法などを学ぶ。	隔年
総合文化学講座	演習科目	日本史料学演習Ⅱ		授業のテーマ及び到達目標 日本史料学の一環として、日本史料学講義Ⅱの履修をうけ、古記録（日記）の読解を行う。本演習の到達目標は、古記録の読解を通じて、解釈はもとよりその背景としての社会状況などを明らかにし、古記録を活用した歴史像構築ができるスキルを身に着けることである。 授業の概要 本講義では、具体的な史料として室町時代を代表する古記録『看聞日記』をとりあげ、本記の読解を行う。『看聞日記』は、伏見宮第三代 貞成親王（1372-1456）の日記で、自筆本44巻が残されており、日記の期間は応永23年（1416）～文安5年（1448）の長きに及ぶ。同一の日記の記事を読み込む作業を通じて、日記の特色を理解し分析・活用法などを学ぶ。	隔年
総合文化学講座	演習科目	中国思想演習①A		宋代は思想史上、漢・唐の訓詁学から新儒学（宋学）へ展開する画期をなす時代とされるが、その学術の実態は、所謂「程朱学」（二程子・朱熹系統の学問）に属さない様々な士大夫達も独自の思索を試みており、豊かな思想的成果を残している。宋代学術研究の資料には、個人詩文集（別集）に収録されたテクスト（序・論・記・書等）、『周易』や『尚書』等の経書に付けた注釈（『易解』、『書伝』等）等があるが、本演習では経書・史書・諸子・詩文等に関する多様な内容を含む宋代士大夫の学術筆記類を取り上げ、彼らの思想的問題意識の在り方を検討する。①Aではさしあたり羅大經の『鶴林玉露』を取り上げ、その豊かな学術に対する認識を探る。その際、漢文（古典文言中国語）の高度な読解力を修得することは勿論であるが、典拠を踏まえた読解法も身に着ける。	隔年
総合文化学講座	演習科目	中国思想演習①B		宋代は思想史上、漢・唐の訓詁学から新儒学（宋学）へ展開する画期をなす時代とされるが、その学術の実態は、所謂「程朱学」（二程子・朱熹系統の学問）に属さない様々な士大夫達も独自の思索を試みており、豊かな思想的成果を残している。宋代学術研究の資料には、個人詩文集（別集）に収録されたテクスト（序・論・記・書等）、『周易』や『尚書』等の経書に付けた注釈（『易解』、『書伝』等）等があるが、本演習では経書・史書・諸子・詩文等に関する多様な内容を含む宋代士大夫の学術筆記類を取り上げ、彼らの思想的問題意識の在り方を検討する。①Bでは、王楙の『野客叢書』をまず取り上げ、特に訓詁学・考証学的な内容のものを選び、読解する。その際①Aと同様、漢文（古典文言中国語）の高度な読解力及び典拠を踏まえた読解法も身に着ける。	隔年
総合文化学講座	演習科目	中国思想演習②A		宋代知識人の学的基礎を解明する試みの一つとして、「経書」に関する多様な資料を読解しつつ、士大夫の思想的営為の在り方と彼らの知識基盤の同一性と差異性とを理解する。②Aは、『周易』に関する資料を扱い、まず『周易』の構造や基礎的諸概念の知識を得る。その上で、多様な『周易』に対する言説や経文の解釈に触れ、士大夫達が独自の新解釈を試み、また独自の思想を構築しようとする意図があったことを理解する。宋代以降のスタンダードな『周易』解釈として程頤の『程氏易伝』、朱熹の『周易本義』があるが、②Aでは北宋・蘇軾の『東坡易伝』を読解する。その際、同時期の他の士大夫による『周易』に関する論（別集に見える「易論」「易説」）や『容齋随筆』などの学術筆記に掲載された『周易』に関する言説等も適宜参照し、その特徴を理解する。	隔年

総合文化学講座	演習科目	中国思想演習②B		宋代知識人の学的基礎を解明する試みの一つとして、「経書」に関する多様な資料を読解しつつ、士大夫の思想的営為の在り方と彼らの知識基盤の同一性と差異性とを理解する。②Bは②Aに引き続き、『周易』に関する資料を扱い、『周易』の構造や基礎的諸概念の理解を深める。その上で、多様な『周易』に対する言説や経文の解釈に触れ、士大夫達が独自の新解釈を試み、また独自の思想を構築しようとする意図があったことを理解する。宋代以降のスタンダードな『周易』解釈として程頤の『程氏易伝』、朱熹の『周易本義』があるが、②Bでは南宋・楊萬里の『誠斎易伝』を読解する。その際、『東坡易伝』や同時期の他の士大夫による『周易』に関する論（別集に見える「易論」「易説」）、『容齋随筆』などの学術筆記に掲載された『周易』に関する言説等も適宜参照し、その特徴を理解する。	隔年
		（研究指導）		(1 野村啓介) 近代ヨーロッパに関する政治社会史・外交史・文化史の観点から、歴史研究の能力向上に向けた研究指導を行う。 （2 小山聡子） 歴史学の面から、日本中世の社会や文化に関していかに分析をすすめるべきか、研究指導を行う。 （3 中川　桂） 日本近世の芸能史・文化史の諸課題について、資・史料の講読や先行研究の検討により、研究指導を行う。 （4 王　宝平） 日中文化関係史または中国史の諸課題について、調査研究の能力に向けた研究指導を行う。 （5 林　英一） 歴史文化学について調査研究する上で必要な手法について、日本近現代史または東南アジア近現代史の観点から研究指導を行う。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人二松学舎　設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度

	入学定員	編入学定員	収容定員
二松学舎大学			
文学部		3年次	
国文学科	240	－	960
国際日本・中国学科	90	－	360
都市文化デザイン学科	50	30	260
歴史文化学科	60	－	240
国際政治経済学部			
国際政治経済学科	160	－	640
国際経営学科	80		320
		3年次	
計	680	30	2,780

令和8年度

	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
二松学舎大学				
文学部		3年次		
国文学科	240	－	960	
国際日本・中国学科	90	－	360	
都市文化デザイン学科	50	30	260	
歴史文化学科	60	－	240	
国際政治経済学部				
国際政治経済学科	160	－	640	
国際経営学科	80	－	320	
		3年次		
計	680	30	2,780	

令和7年度

	入学定員	編入学定員	収容定員
二松学舎大学大学院			
文学研究科			
国文学専攻(博士前期)	16	－	32
国文学専攻(博士後期)	5	－	15
中国学専攻(博士前期)	16	－	32
中国学専攻(博士後期)	5	－	15
国際政治経済学研究科			
国際政治経済学専攻(修士	10	－	20
国際日本学研究科			
国際日本学専攻(修士)	20	－	40
計	72		154

令和8年度

	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
二松学舎大学大学院				
文学研究科				
国文学専攻(博士前期)	12	－	24	定員変更
国文学専攻(博士後期)	5	－	15	
中国学専攻(博士前期)	12	－	24	定員変更
中国学専攻(博士後期)	5	－	15	
歴史文化学専攻(修士)	8	－	16	研究科の専攻の設置
国際政治経済学研究科				
国際政治経済学専攻(修士)	10	－	20	
国際日本学研究科				
国際日本学専攻(修士)	20	－	40	
計	72		154	